

平成23年10月14日

## 「地域産業資源活用事業計画」の第15号認定について

関東経済産業局では、平成19年6月29日に施行された「中小企業による地域産業資源を活用した事業活動の促進に関する法律(中小企業地域資源活用促進法)」(平成19年法律第39号)第6条の規定に基づいて、管内都県を介して申請のありました地域産業資源活用事業計画について、平成23年10月14日、第15号として3件を認定しました。

### 1. 地域産業資源活用事業計画について

本事業計画は、都道府県が基本構想において指定を行った地域産業資源(※農林水産物、鉱工業品、観光資源)を活用して、中小企業等が新商品・新サービスの開発や需要の開拓を図るものです。

認定を受けた事業計画については、補助金(地域資源活用売れる商品づくり支援事業)、設備投資減税、中小企業信用保険法の特例、政府系金融機関による融資制度や専門家によるアドバイス等総合的な支援を受けられることとなります。

※現在、当局管内で2,994件(農林水産物710件、鉱工業品650件、観光資源1,634件)の地域産業資源が指定されています。

### 2. 15号認定について

中小企業者等から申請のあった事業計画については、当局に設置された認定評価委員会における審査を経て、本日、3件の認定を行いました。(認定案件の詳細は別紙のとおり。)

これにより、当局管内では159件の認定が行われたこととなります。

#### 【地域産業資源3類型別の認定件数】

・農林水産物を地域資源としたもの	2件
・鉱工業品を地域資源としたもの	1件
計	3件

【都県別の認定件数】

茨城県	1件	群馬県	1件
千葉県	1件		

【主管省庁との共同認定の件数】

・ 関東農政局との共同認定	2件
---------------	----

〈参考1：1～14号までの当局管内の認定状況〉

- 平成19年10月12日 1号認定（23件）
- 平成19年12月13日 2号認定（12件）
- 平成20年 3月 6日 3号認定（16件）
- 平成20年 6月13日 4号認定（11件）
- 平成20年 9月19日 5号認定（12件）
- 平成20年12月16日 6号認定（ 9件）
- 平成21年 3月19日 7号認定（12件）
- 平成21年 6月29日 8号認定（15件）
- 平成21年11月20日 9号認定（ 9件）
- 平成22年 2月10日10号認定（15件）
- 平成22年 6月15日11号認定（ 4件）
- 平成22年10月 5日12号認定（ 7件）
- 平成23年 2月 8日13号認定（ 9件）
- 平成23年 6月17日14号認定（ 2件）

〈参考2：1～15号までの都県別の総認定件数〉

◎地域産業資源活用事業計画・・・159件

茨城県	19件	神奈川県	8件
栃木県	9件	新潟県	11件
群馬県	21件	長野県	11件
埼玉県	13件	山梨県	16件
千葉県	16件	静岡県	25件
東京都	10件		

（本発表資料のお問い合わせ先）

関東経済産業局産業部経営支援課

担当者：矢部、原田、佐藤、菅間、藤森

電話：048-600-0332（直通）

## 中小企業地域資源活用促進法に基づく地域産業資源活用事業計画の認定一覧(第15回:関東経済産業局)

平成23年10月14日

No.	地域名	事業名	事業概要	地域資源 (3類型)	法認定事業者	共同認定省庁
1	茨城県 古河市	古河産かぼちゃを活用した多用途調味料シリーズ等の商品開発・販売による地域ブランド化事業	茨城県の地域資源であるかぼちゃを原料とし、観光客や地域住民をターゲットとしたかぼちゃ加工食品を開発・販売する。なお、自社ブランド(調味食材等)の開発のみに留まらず、ペースト原料等として地域の企業等に提供し、地域一帯でかぼちゃ商品の開発に取り組むことで、「かぼちゃの町、古河」ブランドの構築を図る。	かぼちゃ (農林水産物)	株式会社つくば食品	関東農政局
2	群馬県 桐生市	特許技術「フリル織」を活用した、高付加価値なフリル製品の事業化	群馬県の地域資源である織物製品の技術を活用した特許技術「フリル織」により、従来にない高付加価値なフリル製品の開発・販売を行うとともに、従来にない販売条件を導入して一般消費者に対しても、「繊維産地”桐生”」の認知度向上を図る。	東毛地域の織物製品 (鉱工業品)	イヅハラ産業株式会社	
3	千葉県 香取郡 東庄町	「ちばの豚」と「ちばの肉牛」の特殊部位を使用した食肉加工品の開発	千葉県の地域資源であるちばの豚・ちばの肉牛の、従来廃棄されていた特殊部位(レバー、タン、スジ等)を活用した食肉加工品の開発・販売を行う。と場と加工場が隣接する立地を活かし、新鮮かつトレーサビリティ可能、安心・安全で手頃な価格の商品開発を目指すとともに、千葉県の豚・肉牛の知名度向上を図る。	ちばの豚、ちばの肉牛 (農林水産物)	田谷ミートセンター株式会社	関東農政局

3類型	農林水産物	通巻番号	3-23-162
地域資源名	かぼちゃ	認定日	平成23年10月14日
地域	茨城県古河市	所管省庁	農林水産省、経済産業省

**事業名：古河産かぼちゃを活用した多用途調味料シリーズ等の商品開発・販売による地域ブランド化事業**

会社名：株式会社つくば食品

所在地：茨城県古河市下大野2000-25

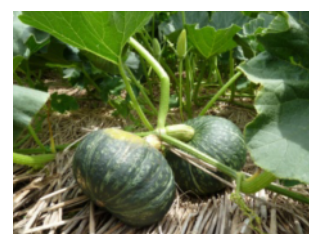
連絡先：TEL：0280-91-3841

HP：<http://www.tsukubasyokuhin.com/index.html>

FAX：0280-91-3843

### 事業概要(新たな活用の視点)

古河産のかぼちゃを活用し、多用途調味料シリーズを開発する。本事業では、当社の調味技術を用いたかぼちゃ商品(NB商品)の開発及び地域産品からつくり出す付加価値の高い商品の提供により、事業の持続性を確保していく。また、古河市には年間120万人の観光客が訪れることから、かぼちゃをテーマとした通年の観光客の集客展開を目指すこととし、地域のブランド商品を求める観光客向け商品を提供していく。このように、地域が一体となって古河産のかぼちゃを域内から域外へ発信し、「かぼちゃの町、古河」の認知度を高め、集客力向上を図ることにより地域活性化を目指す。



古河産のかぼちゃ

### 売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

#### ◆競争力

かぼちゃを使用したスープやスイーツは多く見られるが、市及び地域全体でかぼちゃ商品を展開している地域は他に類を見ない。これを可能とするのは、かぼちゃ生産農家との連携による原材料の安定供給、かぼちゃを旬な時期に加工保存することで商品を通年供給できる仕組みである。

また、かぼちゃの味を最大限引出し、和洋問わず料理やスイーツ等にも使用可能な多用途調味料としてシリーズ化することにより、差別化を図る。

#### ◆市場性

旅行を楽しむ人々は、旅行地の食べ物に関して敏感であり、ご当地の農産資源を使用した食べ物については特に体験したい欲求があると考えられる。そのため、県内及び市内への観光客をターゲットに事業展開を行う。一方、地域住民に加えて、地産地消や食の安全、環境意識の高いユーザー等、「食」にこだわりを持つ層にも幅広くPRを行う。

#### ◆販路

既存の販売ルートに加え、地元での新たな販売ルートを確保する。また、商工会や観光協会等を通じた催事販売等により販路拡大を行い、地域産品とおいさにこだわりを持つ顧客へのPRを行う。更には、レストランチェーンや百貨店等首都圏の販売網への進出により、商品知名度アップを図る。



コンフィチュール(試作品)



ドレッシング(試作品)

### 地域資源における関係事業者との連携

地元事業者、行政、商工会及び観光協会との連携の下、本事業を通じて観光客や地域住民へ商品を提供することにより、地域の連携企業や販売店を含めた地域経済の活性化、地域全体の発展を目指す。また、かぼちゃ生産農家との連携により、農業従事者の収益改善、生産効率及び収穫量の向上、並びに雇用創出を図る。

3類型	鉱工業品	通巻番号	3-23-163
地域資源名	東毛地域の織物製品	認定日	平成23年10月14日
地域	群馬県桐生市	所管省庁	経済産業省

## 事業名： 特許技術「フリル織」を活用した、高付加価値なフリル製品の事業化

会社名：イズハラ産業株式会社

所在地：群馬県桐生市広沢町2-3033-2

連絡先：TEL：0277-52-8787  
FAX：0277-52-8795

HP：<http://izuharasangyo.com/>  
<http://izuhara.net/>

### 事業概要(新たな活用の視点)

群馬県桐生市は、付加価値の高い繊維産地として繊維業界では高い評価を受けているものの、最終製品として一般消費者の目に触れる事が少ないため認知度が低く、桐生市を「全国有数の繊維産地」と捉えている人は少ないのが実情である。

本取組は、繊維産地桐生の技術を結集し、織りの工程の中でフリルを織り込むという特許技術「フリル織」の更なる高度化を図り、これまで市場にない、高付加価値なフリル製品の事業化を図ると共に、従来にない販売条件を導入して桐生地域の認知度向上も目指すものである。

### 売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

#### ◆競争力

本技術は、縫製によりフリルを形成する従来の方法に比べ、大幅な工程・コストの削減が図れるほか、高品質のフリルを安定して形成することが可能である。また、既に特許化されており、競争力の高い技術である。

製品としては、従来のフリル製品と異なり、フォーマル用として使用できる程の上品さと優雅さを併せ持っており、新たな需要開拓も期待できる。

#### ◆市場性

付加価値の高い商品を好むミセス層を中心に市場開拓を進める。消費者ニーズは多様化しており、オリジナリティーの高いおしゃれな商品を求めるニーズは高く、アパレルメーカー等は差別化できる商品を求める傾向にある。ミセス層が、おしゃれに着用できるフリル製品は、これまで市場に存在しておらず、市場ニーズに合致した製品である。

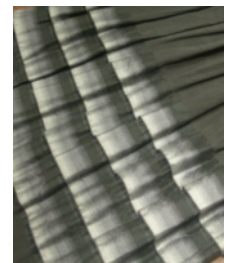
#### ◆販路

既存取引ルートを有効活用し、アパレル・通販を中心に販路拡大を図るが、社名やブランド名、産地名等を記載した、当社指定のタグを付けることを取引条件とし、販売先と「対等」の立場で事業化を進める。

### 地域資源における関係事業者との連携

複合繊維産地である強みを生かし、染色整理、縫製、デザイン等、外注を必要とする作業の多くを地場の企業と連携し、地域に波及効果をもたらしながら、事業化を進めていく。

当社ブランド名や産地等を記載したタグを付けての商品化を通じて、「繊維産地桐生」の知名度向上に繋げるほか、「脱下請」の機運醸成を図り、産地の活力向上にも繋げていく。



製造・発売元  
〇〇〇〇株式会社

【特許技術を活用したフリルスカートの試作品】

【商品販売時の指定タグ見本】

3類型	農林水産物	通巻番号	3-23-164
地域資源名	ちばの豚、ちばの肉牛	認定日	平成23年10月14日
地域	千葉県香取郡東庄町	所管省庁	農林水産省、経済産業省

## 事業名:「ちばの豚」と「ちばの肉牛」の特殊部位を使用した食肉加工品の開発

会社名:田谷ミートセンター株式会社

所在地:千葉県香取郡東庄町笹川い1975

連絡先:TEL:0478-86-0220  
FAX:0478-86-1526

H P: <http://www.taya-meat.com/>

### 事業概要(新たな活用の視点)

「ちばの豚」は全国第4位の飼養戸数や飼養頭数を有し、約14種類の千葉県銘柄豚肉として販売されている。県内でも特に養豚の盛んな東庄町周辺地域の豚をと畜する東庄町食肉センター(と場)に当社工場は隣接している。近年、飼料価格の高騰による豚肉仕入れコスト増から、豚1頭全体の有効活用が課題となっており、今まであまり利用されていなかった豚レバーや繁殖用メス豚のタンを低添加物で加工等したところ、市場で高い評価を受けた。

今回の事業では、東庄町産の豚レバーや繁殖用メス豚のタンを使用した「スモークレバー」や「パストラミタン」を商品化し、東庄地区の豚の知名度向上を図ると同時に使用量の増加を目指す。また、同様に十分活用されていなかった千葉県産牛肉のスネ肉やスジ肉のコンビーフも開発する。

### 売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

#### ◆競争力

食肉加工品では同様の商品が開発・販売されているが、本商品は、と場の隣地という当社工場の立地条件を活かし、新鮮な状態で低添加物加工し、トレーサビリティがとれると場のシステムを踏まえて、安心かつ安全で手頃な価格の食肉加工品を開発する。

#### ◆市場性

本事業のターゲットは、道の駅や農産物直売所等を利用する頻度の高い40歳~69歳の中老年層の男女や、健康に関心の高い20~30歳代の女性であり、これらターゲット客に向けた店頭試食販売結果等からも、安定的な販売展開が期待される。

#### ◆販路

農産物直売所、高速道路サービスエリア、土産物店等、地元産の素材を使用した商品が優先的に販売されている販路を選び、当社販売員や生産者の参加による店頭試食販売や、当該商品の食べ方や調理方法等の提案を行いながら、東庄町産豚や千葉県産牛の認知度向上を目指す。

### 地域資源における関係事業者との連携

東庄町周辺地域の豚生産者(「林豚肉出荷組合(15生産者)」や「東の匠SPF豚(10生産者)」)を中心に周辺地域畜産農家で約40軒との連携・協力をしながら当製品の売上拡大を図り、段階的に取引価格の向上を行っていく。また、本事業については、東庄町、東庄町商工会を中心に地域からの応援を得ながら、畜産農家と当社とが一体となった事業の推進を図る。



【スモークレバー】



【パストラミタン】



【コンビーフ】